

忘れてはいけない記憶

特集 大日本大震災から5年



日本中を震撼させた東日本大震災から、今年で5年が経ちました。  
多くの命が奪われただけでなく、自然や街や仕事を無残なまでに奪ったあの日。平成28年2月10日時点で、死者・行方不明者は18,456人。建物の全壊・半壊は400,243戸という被害が出ました。  
時間が経つにつれて当時の記憶が、少しずつ薄れつつある中、今もなおまじかに直直と向かい合いながら地道に歩み続けている人たちが数多くいます。  
震災から5年という節目。あの日のことを振り返らせてはいけません。私たちが今やることを考え、教訓を生かし、備えに努めましょう。

被災者の声



震災で甚大な被害を受けた宮崎県杵臼郡。阿蘇と大垣市は、奥の細道ゆかりの地という縁で結ばれています。  
今春、本市で開催している観光交流促進のためにたびたび出訪している杵臼さんにお話を伺いました。  
**がれきに埋もれた故郷**  
震災が起こった時、私は、漁師仲間の家で過ごしていたところでした。揺れの大きさを、ただ事ではないと感じ、急いで家を出る準備をして、避難しました。地震、その後の津波の被害によって、慣れ親しんだ故郷は大量のがれきと泥に覆われた一転…  
生活は一転…  
ライフラインは止まり、お風呂に入らず、寒い中、暖房がつかないのが日常でした。また、仕事場は壊滅的な状態に。

午前中は海のがれき処理。午後は店の復旧作業という日々が続き、仕事を再開するのに、1カ月半かかりました。

たくさんの人に感謝したい



地域のつながりを大切に

震災時、備品などをしっかりと揃えておらず、近所の民は食料などを分けてもらいました。また水や火の山を大入倉など、情報を共有することで、大助かりました。  
大垣市の皆さんには、備品などの準備はもちろんのこと、普段から地域のつながりを大切に、いざという時に助け合える関係を築いておきたいです。

大垣市から現地へ



**貴重な経験を業務に生かす**  
岩手県石巻市に職員転出として平成26年7月から9月まで勤務しました。担当業務は、被災校舎の維持管理や新築工事の設計監理などです。  
現地の状況は、自分が思っている以上に悲惨なものでした。そのような中、たまに働く意志をもちました。3カ月という短い期間でしたが、被災地での貴重な経験を、今後日々の業務、また有事の際に生かしていきたいと思えます。

**災害が起こっても笑って過ごしたい**  
平成28年5月から9月頃まで、宮城県石巻市や気仙沼市などに支援に行きました。  
私は、ある地域で、自身が被災しながらも、前向きに復旧に取り組みている一人の男性に出会いました。その地域の人たちは、その方を中心に生きており、大変感動しました。  
そのような方々から私は、災害が起こっても、笑って乗り越えていけるように頑張りたいと思います。



女性防災士の代表 伊藤 佳子様

他人事ではない大地震

私たちの地域で大きな被害が出た地域として、「養老一桑名一四日市断層帯地震」や「南海トラフ巨大地震」が挙げられます。  
而も、平成27年度に、本市に影響を与える可能性について防災調査を実施しました。  
**養老一桑名一四日市断層帯地震(マグニチュード7.7)**  
市内の被害 (冬(冬5時に発生した場合))  
最大震度-7 死者数-1,300人 建物全壊数-24,000棟  
養老一桑名一四日市断層帯でマグニチュード7.7の地震が発生したと想定。断層が直下または近辺にあるため、大津・養保地域の広い範囲、石川津の一部の地域では、震度7の非常に強い揺れが予想されます。  
地震調査研究推進本部 (文部科学省) によると、30年以内に発生する確率はほぼ0~0.7%程度とされています。

今一度“備え”を考えると

いつ起こるかわからない災害に備えることが、大切な命を守ります。この機会にこのことについて改めて考えてください。  
詳しい内容は、生活安全課で配布の「防災ガイドブック」(PDFダウンロード)をご覧ください。

あなたの家は大丈夫？不安があれば耐震診断を

昭和56年5月以前に建てられた家は、旧耐震基準で建てられています。耐震診断を行い、急務という結果が出た場合、専門家にご相談のうえ、補強をしましょう。耐震診断、補強の相談は、建築課(☎7-8430)へ。  
**災害時の「安否確認」の方法を決める**  
災害が起こったとき、大切な人と一緒にいるとは限りません。家族や大切な人と災害時の「連絡方法」を確認しておきましょう。

大切な人と使い方の確認を「災害用伝言ダイヤル(171)」

災害発生時に提供される「声の伝言機」。固定電話、携帯電話、公衆電話から利用でき、1伝言30秒まで録音可能です。毎月1、15日は機能が停止しますので、ぜひお電話をされた人と使い方を確認してください。

非常持ち出し品の用意を

非特等中・持病のある人など、それぞれ「取り回し」が異なる場合は、非常持ち出し品を用意するようにしましょう。

最低限、用意したいものリスト

- 飲料水
- 非常食
- 衣類 (防寒用品)
- 手動式充電機
- ラジオ
- 携帯充電用バッテリー
- 電池
- 現金
- デジタルシート
- トイレ
- 歯具
- タオル
- ビール缶
- ペットボトル

南海トラフ巨大地震(マグニチュード9.0)

市内の被害 (冬(冬5時に発生した場合))  
最大震度-6強 死者数-150人 建物全壊数-5,000棟



マグニチュード9.0の南海トラフ巨大地震が発生したと想定。市全域が震度5強以上であり、特に大垣地域は、広い範囲で6弱から6強。豊田地域では、全域が震度6級の強い揺れが予想されます。  
地震調査研究推進本部 (文部科学省) によると、マグニチュード8以上の地震が30年以内に発生する確率は70%程度とされています。

想定される2つの地震について、市内の揺れの大きさを詳細に示した「震害MAP」は、生活安全課で配布の防災ガイドブック、市HPの「大垣市総合GIS(防災マップ)」をご覧ください。



NPO法人防災支援ネットワークの理事長を務める高木さん。市の防災関係機関などに協力し、被災者への支援を行っています。  
高木さん、お話を伺っています。お話を伺っています。お話を伺っています。

悲しい記憶を教訓に

被災地へは、ボランティア 理事長 高木 洋一さん として宮城県東松島市や南三陸町に何度も行きました。想像を超える惨状を目の当たりにし、悲しみを超えたい思いに似たのを覚えました。  
私は、悲しい記憶を風化させず、多くの人に地域の悔さ、災害への備えの大切さを伝えていきたいと考えています。

自分の命を守る準備 できてますか？

自分の命を守る準備 できてますか？  
自分を守らなければ、大切な人を救うこともできません。  
一番に知り組んでほしいのは、家族関係や近所、地域の絆強化です。家族で話し合い、避難場所や連絡方法を確認。非常持ち出し品を準備しておくことも大切です。  
また、ご近所での「あいざき」を大切にしてください。また、災害時には、近隣の住民同士の力が不可欠です。地域での交流の輪を広げてみてください。

数字で見る 大垣市の防災力

24 → 40  
防災出前講座の開催数

東日本大震災発生時の平成22年度と比べ27年度(1月末現在)の調査回答地域数と比較したものの

4 → 10  
県外都市との協定締結数

東日本大震災発生時の平成22年度発生時の災害対応本部協定締結数の倍増

691  
避難訓練回

平成27年4月1日現在の防災訓練回数を示したもので

331  
防災リーダー認定者数

地域の防災リーダーを育ててきた「防災はぶくろ」が、防災リーダーとして、目標は地域の防災訓練や防災を行うほか、災害時には救援物資運送など活躍しています。

市長の「防災はぶくろ」を専ら活動する防災リーダー認定者数(平成22年度から27年度までの累計数)

100 %  
小・中学校の避難率

市内の小・中学校の校舎の耐震化を示したものの



市が主催し、NPO法人防災支援ネットワークにご協力いただいた「防災出前講座」。震災後の調査関係者の増加から、市民の意識が向上していることがうかがえます。同講座について詳しくは、生活安全課(☎7-7385)へ。

大規模災害発生時、一地域の防災機関だけでは対応が十分に行えないと考え、県外都市と協力を進め互いに協定を締結して応対体制を整備を図っています。

それぞれの地域で、大災や自然災害から住民の命を守るために、復旧支援を担う防災リーダーを育ててきた「防災はぶくろ」が、防災リーダーとして、目標は地域の防災訓練や防災を行うほか、災害時には救援物資運送など活躍しています。

平成21年度から進められた市内小・中学校の耐震化事業。昨年の春、全校舎の耐震化が完了しました。災害時には、避難所として一時的に生活する地域となります。